

「見障害2人 パンダ」の縁

「下ぶくれの顔に、白い楕円形の目の「シロメパンダ」。
トロールするのが仕事だが、好物の豚まんを食べて怠
んな風変わりキャラクターを、難病の網膜色素変性
だ。大阪市淀川区の三国新道商店街にあるコミュニテ
は、31日まで作品展が開かれている。

向けの就労支
Happy」
目)で働く松
松野さんを手
すのが、同じ
秀一さん(48)

は暗いところ
なったり、視
くなったりす
は失明に至る
2人の視野率
を食えるとき
半分と箸しか
んの右目はほ
視力も0・1
左目がほぼ見

のころ病名を
会社でキャラ

「見える限り描く」

入れたところかわいく仕上が
り、シロメパンダが生まれた。
視野が狭いため、鉛筆で描く下
描きは、中心がずれたり左右非
対称になったりする。それをパ
ソコンに取り込み、修整を重ね
る。

藤原さんは、商業施設の駐車
場管理などの会社で働いていた
30代半ば、網膜色素変性症と診
断された。足元が見えずゴミ拾

いも満足にできなくなり、視覚
障害2級の認定を受け、まもな
く辞めた。

昨年5月、「Be Happy」
y」で働き始めたころ、壁に貼
ってあった松野さんの絵に一目
ぼれした。「若いころ漫画家を
目指していたから、キャラクタ
ーを生み出す大変さがわかる。
同じ病気だから描き続けるす
さがわかる」

2人はすぐに打ち解け、消し
ゴムを落としてもなかなか探せ
ないなど、病気の「あるある
話」で盛り上がった。知恵を出
し合い、しっかり者の弟「トビ
パンダ」や、彼女の「パンミち
ゃん」も誕生した。

藤原さんは「松野さんに会っ
て卑屈になることが減った」。松
野さんは「見えている限り描き
続けたい」と話す。2人の作品
やポストカードは「Be Ha
ppy」(06・6195・86
49)で買える。(新屋絵理)

